

単元構想

単元名【おもしろいと思うところを、しょうかいしよう】

教材名【三年とうげ(李錦玉)】(全 6時間)

3年 中村 敦夫

⑤【単元目標】 物語の内容を確かめ、おもしろいと思ったところを見つけながら読むことができる。

⑥【単元の言語活動】 民話や昔話を紹介する

(相手：学級の仲間に 目的：自分の言葉で伝えるため 方法：おもしろさを紹介する 場面：グループでの紹介活動で 評価：相手に伝わったか)

④【教材の特徴】

・朝鮮半島に伝わる民話である。よい眺めの魅力的な峠だが、人々が恐れる言い伝えがあり、読み手を惹きつける。リズムのよい歌、情景描写などを通して、人々の大らかな生き方が描かれ、民話の楽しさを子ども達が味わえる作品である。

③【既習事項】

・出来事を中心にして読み、あらすじをつかんだり、場面ごとの登場人物の気持ちを想像したりすることを学習している。

②【児童の実態】

○自分の思ったことや感じたことを素直に言葉や態度で伝えることができる。
△叙述をもとに、場面の様子や登場人物の気持ちを想像する力がやや弱い。

①【重点とする指導事項】

場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むこと。

【読むこと(1) ウ】

⑦【言語活動成立の要件】

- ア 場面の移り変わりに即して、登場人物の行動や気持ちの変化がとらえられている。
- イ 根拠とする叙述を明らかにして、登場人物の人柄をとらえている。
- ウ 民話や昔話の紹介の方法が分かり、グループ、手順、時間、役割分担、評価の観点が明らかになっている。

⑧【単元の流れ】

【第1次】1時間

- ・教師のブックトークを聞きおもしろさを紹介する言語活動について理解する。
- ・「三年とうげ」の範読を聞き、あらすじをつかむと共に、おもしろいと思ったところを伝え合う単元の学習計画を立てる。

【第2次】3時間

- ・物語を音読し、調子のよい表現を楽しむと共に、設定と物語の展開を確かめる。
- ・おじいさんの様子を表す叙述から、おじいさんの気持ちの変化を捉える。
- ・トルトリの人物像について話し合う。
- ・面白いと思ったところや、心に残る言葉や文を、時間毎にノートに書きまとめる。

【第3次】2時間

- ・民話や昔話を読み、面白いと思ったところを選んで、その紹介文を書く。
- ・書いたものを班内で交流し、意見や感想を伝え合う。

並行読書・・・民話や昔話などの作品を紹介し、朝学習や休み時間など授業外の時間に読めるようにしておく。

⑨【単位時間の工夫】

【第1次】

- ・龍の子太郎の2枚の挿絵を見せ、「おもしろい」を使わず面白さの紹介をする言語活動を説明する。
- ・朝鮮半島の民話であることを押さえ、興味関心をもたせ、範読を聞かせる。

【第2次】 内容の読み取りー話し合い

- ・展開 毎時間、一人読み→グループ交流→全体交流で読み取ったことを確かめつつ、一人一人の読みの違いに気付く。
- ・まとめ 考えの深まりや、広がりなどをノートに書いたり、話したりする。毎時間の終末に深まった読みをノートにまとめることで、自分の読みの深まりを自覚できるようにする。

【第3次】

- ・根拠を明らかにし、おもしろいと思ったことを相手に分かりやすく伝えられるように、2枚の挿絵をもとにして紹介する文章にまとめる。
- ・紹介文を読み合い、面白かったところについてグループ内で伝え合う。

⑩【支える学習環境】

- ・考えの足場となる教室掲示(単元を貫く課題の掲示、学習計画表の掲示、学習の足跡の掲示)
- ・並行読書用図書(昔話・民話など) ・考えをつないだ話し方の話型の掲示

【研究とのかかわり】

(1) 願いを明確にした単元指導計画の工夫

- ・一人読みで読み取ったことをグループや全体で交流することにより、一人一人の感じ方や考え方の違いに気付き、自分の考えを深めることができるようにする。
- ・第3次で「面白いと思ったところを伝え合う」言語活動を設定し、第2次の中で面白いと思う内容を探しながら読んでいくことで、叙述に着目して物語を読むことができるように計画した。

(2) 考えを深め、広げるための指導の工夫

- ・一人読みの後、比べ読みやつなぎ読みの話型を使い、グループで話し合いをすることで、一人一人の見方考え方の違いはありながらも様々な叙述から登場人物の気持ちの変化や人柄を読むことができるということに気付くことができる。

(3) 自己の高まりを自覚できるまとめ方の工夫

- ・一人読みで自分の考えを書いたノートと、第2次の毎時間の終末に深まった考えを書き込んだ1枚のワークシートを比べることで、自分の読みの高まりが自覚できるようにする。

◆本時のねらい

2枚の挿絵を選んで書いた紹介文をもとに、おじいさんの気持ちや行動の変化を想像しながら読み、自分が面白いと感じたことを友達に伝え合う活動を通して、作品の多様な面白さを理解することができる。

◆本時の展開（5／6）〈全文〉

	学習活動と児童の姿	指導上の留意点（☆人権教育の視点）
つ か む ／ 考 え る ／ 深 め る ／ ま と め る	<p>1 前時の学習を振り返る。 ・「三年とうげ」を読んで自分がおもしろいと思ったところを友達に伝えるための文章を書いたことを振り返る。</p> <p>2 本時の課題を確認する。 さし絵2枚を使い、お話のおもしろかったところを友達にしょうかいしよう。</p> <p>3 挿絵のうち2枚を選び、自分が面白いと感じたところを伝える文章をペアで紹介し合う。 ・美しい峠からの眺めに、うっとりしていたおじいさんが、石につまずいて転んでしまったことから、おじいさんが不幸な思いになっておそろすところが<u>おもしろかった</u>。 ・トルトリが見舞いに行き、病気になったおじいさんに、わざと峠で転べば長生きできることを説明したら、おじいさんが元気になったところが<u>おもしろかった</u>。 ・うれしくなったおじいさんが、峠でわざと何回も転んでみせて、すっかり病気が治ってしまうところが<u>おもしろかった</u>。 ・おじいさんが「三年しか生きられぬ」と言っているのに、トルトリが「一度転ぶと、三年生きるんだろ」という答えが<u>おもしろかった</u>。</p> <p>4 深めの発問を聞いて自分の紹介文を修正し、グループで交流する。 ◎おもしろいところを「おもしろい」って言葉を使わないで伝えるには、どのように文を工夫するとよいのだろうか。書き直してみよう。 ・後でトルトリに聞いて、また元通りのおじいさんに戻れるのに、<u>そんなにあわててしまうなんておじいさんは単純で、思わず笑ってしまうな</u>と思った。 ・自分があと三年しか生きられないことがショックだったはずのおじいさんが、トルトリから話を聞いて見る見る元気になるので<u>次はどうなるのかと楽しみになった</u>。 ・自分が長生きできることを知って、うれしさのあまり何回も転んでしまう姿が<u>読んでいてその変わりように笑えてきた</u>。 ・おじいさんにトルトリが「一度転ぶと、三年生きるんだろ」と、プラスに考えると<u>頭がいいな</u>と思った。</p> <p>5 全体で交流する。 「三年とうげ」でうっかり転んでしまい、自分が三年しか生きられなくなったと思い込んで病気になったおじいさん。トルトリから話を聞き、峠でたくさん転べば長生きできると知って、すっかり元気になって何回もとうげから転んでみせたおじいさんの変わりように私は笑いがこみ上げてきました。</p> <p>6 本時の学習の振り返りをし、次時の見通しをもつ。</p>	<p>・前時までには、自分がおもしろいと思ったところを友達に伝えるための文章を完成させておく。</p> <p>・各自で書いた文章ではあるが、意見発表の苦手な児童には、寄り添って読みを教えるなどの支援をする。</p> <p>・展開が捉えにくい児童には、何の場面の挿絵かを問いかけ、何がきっかけで気持ちがどのように変化したのかを説明させる。</p> <p>・選んだ挿絵の違いや、おもしろいと感じた理由に着目して聞くことで、各自の視点の違いや、おもしろさの違いにも気づかせたい。</p> <p>・「おもしろい」という言葉を使わないことで、差別化が図れたり表現に広がりを出したりすることができる気づかせる。</p> <p>・「おもしろい」ことを表現する言葉を事前に日記等で使うなど、表現を高めしておく。</p> <p>・「おもしろい」を使わない表現を例示させ、板書に位置付けることで、書き加えの参考にできるようにする。</p> <p>☆仲間の意見を聞き、根拠には人によって違いがあることに気付くことができる。（認識力）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価規準【読む能力】 おじいさんの気持ちや行動の変化を想像し、物語のおもしろさを2枚の挿絵を用いて、「おもしろい」という言葉を使わずに表現している。（ワークシート・発言）</p> </div>